

町民主役！ 第18回西原まつり。

関連記事10～11ページ



編集発行／西原町役場 西原町字嘉手苅1-12番地

098(945)5011

印刷／(株)沖産業

町の世帯・人口	平成23年10月31日現在
男	17,456人
女	17,400人
計	34,856人
世帯数	13,218世帯

特定健診の受診状況	平成23年11月10日現在
受診率	20.8%
平成23年度受診率目標	55%
目標まであと	2,212人

今月のトピックス

- まちの財政事情(平成23年度上半期).....2
- 12月3日から障害者週間.....8
- 特定健診残り1ヶ月.....3
- 第18回西原まつり.....10
- 西原町ニューイヤー禁煙.....5
- 西原町人材育成会学資金貸費生募集...14
- 小那覇マリンタウン線供用開始...6
- 西原町・町教育委員会臨時・嘱託員募集...16

案ずるより 受けるが易し 特定健診

感動と喜び溢れる

「世界のニシハラランチの集い」



約300名のニシハラランチで会場は埋め尽くされました。



参加者を歓迎する
上間明町長



会場のあちこちで
再会を喜ぶ姿が見られました。

レセプション



ハワイから家族で参加



あいさつの翻訳ボランティア
に協力したみなさん



今回初めて、ニシハラランチの集いにボリビアから参加(中央2人)

10月12日から16日の日程で開催された「第5回世界のウチナーンチュ大会」期間中の10月14日、「第5回世界のニシハラランチの集い」が開催されました。エリスリーナ西原ヒルズガーデンで行われた歓迎レセプションは、100名余の海外からの参加者を含む約300名が参加、友好親善を図り、海を越えた絆を深めました。小波津伝統芸能保存会や舞藝琉太鼓、内間団地青年会などが余興を披露し、会場を盛り上げました。また海外からの参加者に対して、西原町から写真集CDが、同教育委員会から西原町史第1巻通史編が、町民踊研究会から記念品が贈られました。参加者の城間三郎さん(字棚原)らは、1955年に坂田小中学校(当時)を卒業した同級生8名と会場で喜びの再会を果たし、「このメンバーで揃うのは約50年ぶり」と、昔話を花を咲かせました。



記念品を贈る波平常則教育長

歓迎レセプションに先立って行われた町内施設等見学には、約30名が参加して南西石油(株)構内と内間御殿を訪問しました。参加者の一人、奥浜真次さん(ブラジル)は、南西石油の建物が見えてくると「今の南西石油の敷地の中に父親の土地があった。軍用飛行場を作るために戦争前、日本軍に土地を収容されて我々に引越した。」と思い出を語りました。また比嘉キヨ子さん(ハワイ)は「子どもどものとき、年に1回伊保の浜へ泳ぎに行くのが楽しみだった。埋め立てられて工場ができて、面影もない。」と、時代の変化に驚いていました。

町内見学



南西石油の会社前で記念撮影



内間御殿の案内板の前で説明を受ける参加者

写真が語る、100年の移民の歴史を展示

「沖縄からペルーへの移民百周年ペルー移民展」(在ペルー西原町人会・町教育委員会主催)が10月9日から17日の間、サンエー西原シティで開催され、約400点の写真が展示されました。ペルー沖縄県人会の会長も務めた仲宗根フェルナンド吉修さんが写真を提供。西原村人会(当時)の活動や日本学校の様子をはじめ、南米移住者募集ポスターなどが展示され、買い物客らが足を止めて見入っていました。



思いを込めて、参加者に記念品を贈呈

西原町民踊研究会(新川千代子代表)は、「第5回世界のニシハラランチの集い」の参加者に贈る記念品を作成しました。記念品はペットボトルのふたを活用した太鼓(写真)150個で、町花のブーゲンビリアと「無事帰る、また沖縄に帰ってくる」と願いを込めたカエルがあしらわれています。新川会長は「太鼓を見るたび、故郷の西原を思い出してほしい。」と思いを語りました。



幸地自治会でも歓迎会を開催

幸地自治会(仲宗根弘一会長)は、同自治会出身でブラジルへ移住した与那嶺良範さん一家ら7名を招き、10月15日に歓迎会を開催しました。地域から多くの方が参加し、貴重な交流の機会を楽しみました。



字幕付き動画でニシハラランチの集いを呼びかけ

町ホームページでは、上間明町長から海外参加者へのあいさつを、スペイン語とポルトガル語の字幕付きで配信しました。翻訳は海外移住者子弟研修生3人が手がけました。



世界に広がる Nishihara の輪